



背中を突き飛ばすようにして通された部屋の中で私が見たのは何人もの男達によって陵辱……輪姦されている妹の姿だった。

「法子！」

思わず私の口から洩れる妹の名前……

その声に反応した妹が、焦点の定まらないトロリとした視線を私の方へと向けた……

そして妹の股間からもドロリとした粘塊が垂れ落ちて行くのが見えた……



成人向け

楽しいカエルの御宿のエロ小説

人妻 律子シリーズ

『姉妹陵辱』

目次

お姉ちゃんとお義兄ちゃん

…

3

陵辱の行為

…

1 2

疑惑

…

1 6

法子と由香里

…

2 1

妹陵辱

…

2 6

姉妹陵辱

…

3 2

あとがき

…

3 8

本文テキスト

蛙雷

表紙・挿絵

月工仮面

『お姉ちゃんとお義兄ちゃん』

私が好きになった人は、お隣の家のお兄ちゃんだった。

それが私の初恋……だから私は大人になったら、お兄ちゃんのお嫁さんに絶対なるんだと決めていた。でもお兄ちゃんのお嫁さんになるのには、大きな障害と言うか邪魔者と言うか、恋のライバルが居た！

それは私のお姉ちゃんだった。私とお兄ちゃんが仲良くしていると、何時の間にか二人の間に入り込んできて、仲良くしている私と兄ちゃんの仲を邪魔をする。

(今考えれば、邪魔をしていたのは私の方だったかもしれないけど……)

女の勘としては、姉ちゃんもお兄ちゃんの事がどうやら好きなようだった。

(お兄ちゃんもお姉ちゃんの事が好きな感じだったけど……)

でも、お兄ちゃんの事を最初に好きになったのは、私の方が先の筈なんだから！

まあ確かにお姉ちゃんは、妹の私から見ても美人と言うか、綺麗と言うか、可愛くて優しく、とても良いお姉ちゃんです。私も嫌いじゃないけど、これとそれとは話は別で……お姉ちゃんは、私の恋のライバルだった！

だから私は、お兄ちゃんとお姉ちゃんが二人きりにならないようにと、一生懸命に二人の間に入り込んで邪魔をした。

お兄ちゃんとお姉ちゃんは、そんな私を少しだけ困ったような顔をしながらも可愛がってくれていた。

そんな事が続いたある日の事、私が外から家に帰ってきて玄関を見るとお兄ちゃんの靴が置いてあった。その日は、お父さんもお母さんもなく、私も本当なら帰ってくるのが遅くなる筈だった。

家にお姉ちゃんしか居ないから、お兄ちゃんはお姉ちゃんと遊びに家に来たんだと思い、だつたら二人を驚かして邪魔をしてやろうと考えて、家の中にいるだろお兄ちゃんとお姉ちゃんに気が疲れないようにと、二人がたぶん居るだろうと思う二階のお姉ちゃんの部屋に、そろそろと足音を忍ばせて階段を上がった。

そして私が、二階にあるお姉ちゃんの部屋をこっそりと覗き見ると……そこで見たのは、抱き合っていてキスをしているお姉ちゃんと兄ちゃんの姿だった……

驚いて、声をかける事が出来なくて、それを覗き見る事だけしかできなかった……

うつとりしたように両手をお互いの体に絡ませるようにしながら抱き合っていて、キスを続けているお兄ちゃんとお姉ちゃん……

やがてお兄ちゃんは、キスをしながらお姉ちゃんの着ている服の中へと手を入れ始めた。

驚いたように、服の中へと入ってくるお兄ちゃんの手を抑えるお姉ちゃんだったが、お兄ちゃんはお姉ちゃんの手を脱がしていく……

着ている服を脱がそうとしているお兄ちゃんの手を掴んで、必死になつてお兄ちゃんの手を抑えようとしていたお姉ちゃんだったが、とうとう着ている服を半分くらい脱がされ……下に

着けていた白い布切れが上の方へとずらされて、白くて綺麗なお姉ちゃんのおっぱいが丸出しになって、その丸出しになったお姉ちゃんのおっぱいにお兄ちゃんは顔を押し付ける。
はあうっ！

お姉ちゃんの口から声が漏れだす。
上半身を裸にされたお姉ちゃんは、そのままスカートも脱がそうとしているお兄ちゃんの手から逃げようとした。

覗き身をしているお姉ちゃんの部屋の中、おっぱいを丸出しにしたままのお姉ちゃんが、お兄ちゃんに向かって何か言っているのが聞こえた……

だめ…お父さんとお母さんを裏切るから…まだ…だめ…おねがい…ゆるして…

だけどお兄ちゃんはお姉ちゃんの言葉が聞こえないとでも言うように、這いずる様に逃げようとしていたお姉ちゃんに覆いかぶさり、そのままスカートを脱がそうとした。

スカートが脱がそうとしているお兄ちゃんに手を、お姉ちゃんは必死になって抑え、抱きしめ続けているお兄ちゃんの腕の中から逃げようとしているように見えた。

そんなお姉ちゃんの耳元に、お兄ちゃんは顔を近づけて何かを囁くように言う……

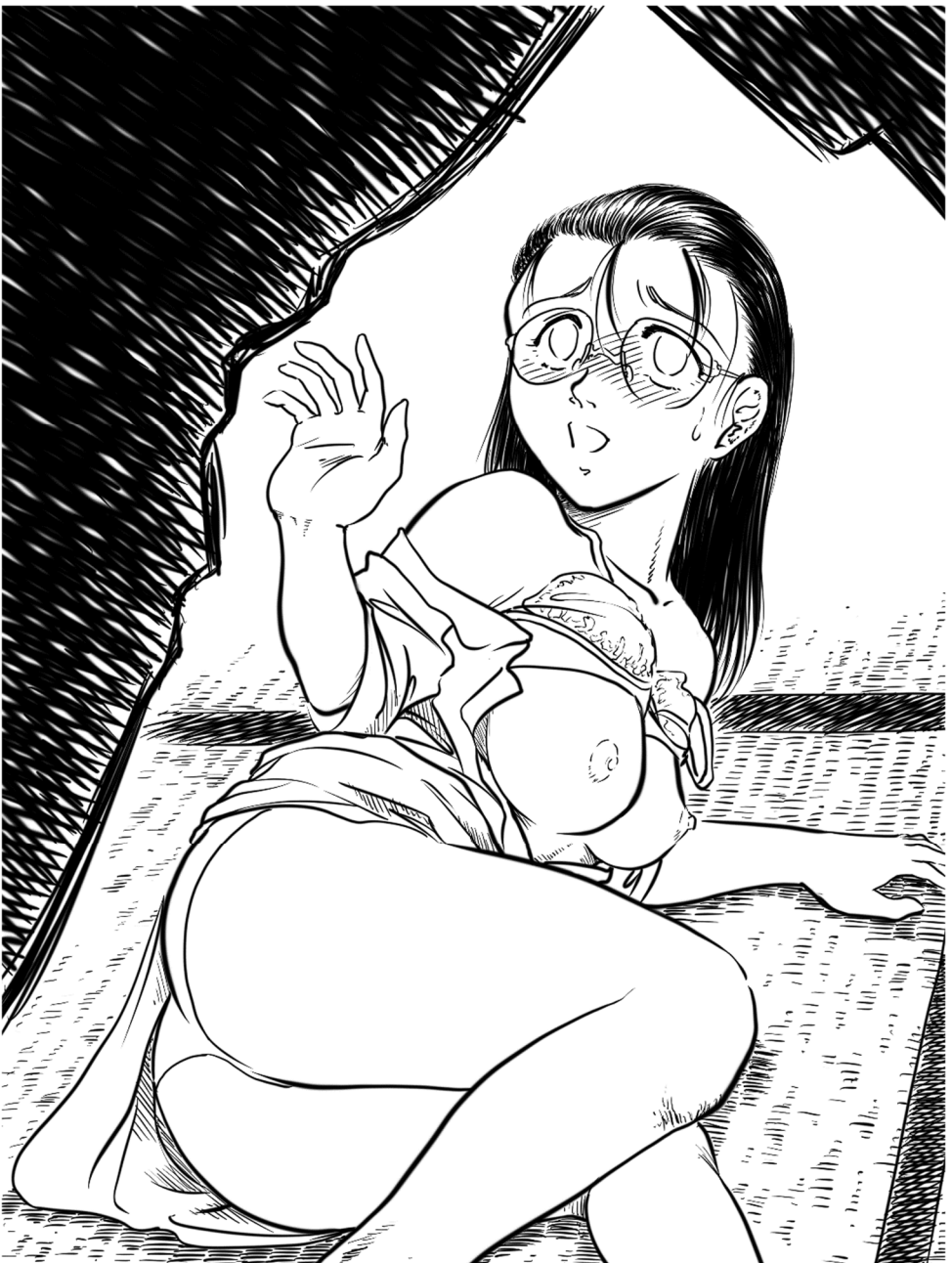
何を言っているのか聞こえなかったけど、突然にお姉ちゃんの動きが止まる……

そして……

あああ…だめええ…うっ…あうう！

お姉ちゃんが小さな声を出し、同時にスカートが脱がされていく……





いやっ！

大人しくなっていたお姉ちゃんが、思い出したように激しく動き出すけど、その動きを強引に抑え込むようにしながら、お兄ちゃんはお姉ちゃんのパンツを脱がして、お姉ちゃんの股間に手を差し込んだ。

おねがい…まだ…やああ…やめて…おねがい……

半分泣くような声を出し続け、体をじたばたさせているお姉ちゃん……

だけどその声は小さくなっていき、お兄ちゃんの手の動きを止めようとしていたお姉ちゃんの手は、いつの間にか力をなくしていき……動きが止まる。

そしてお兄ちゃんは、裸にしたお姉ちゃんの上から体をどかす。

裸にされ倒れたままのお姉ちゃん……そんなお姉ちゃんの姿を見下ろしながら、お兄ちゃんは自分が着ていた服を脱いでいく…上着…シャツ…ズボン…そしてパンツ…お兄ちゃんの股の間からピン！ と立ち上がり、反り返る様に大きくなっているおちんちんが見えた。

お姉ちゃんにもお兄ちゃんのおちんちんが見えたようだった。

「ひっ！」

小さな声を出し怯えたように体をすくめながら、這いずる様にして逃げようとしたお姉ちゃんだったけど、そんなお姉ちゃんの上に再び覆いかぶさるお兄ちゃん……

逃げようとしていたお姉ちゃんの体が、お兄ちゃんに抱きすくめられて強引にその場に押し倒され広げられ……お兄ちゃん体の下に押さえつけられる。



だめ、やあ……おねがい……まだ……だめ……

お姉ちゃんの口から小さな声が漏れだし、互いにもつれ合うように激しく動きあう二人……ひいぐう！

やがてお姉ちゃんの口から、苦痛とも哀し気な悲鳴ともつかない……形容のしようがない声が漏れだし、お姉ちゃんの動きが完全に止まった……

そしてぴくぴくと体を痙攣させているお姉ちゃんの体の上で、お兄ちゃんは激しく腰を振る様に動き続ける。

やがてお姉ちゃんとお兄ちゃんの動きが完全に止まる……

うつ……うつうつ……

小さな声を出しながら、泣いている様なお姉ちゃんの上からお兄ちゃんが起き上がり体をどける。

死んでしまったように動かないお姉ちゃんの事が心配になり、思わず覗き見ている部屋の中に入ろうとした時に、お兄ちゃんはぐったりとしたまま倒れているお姉ちゃんの体を抱き起す。

あつ……あああ……もう……

何かを呟くように言ったお姉ちゃんだったが、お兄ちゃんは抱き起したお姉ちゃんの体をうつ伏せにして、背後からお尻を抱きしめる様にして覆いかぶさる。

あつ、あああ……はあんつあああ……

お姉ちゃんの口から、再び苦痛とも悲しみともつかない声が漏れだす。

四つん這いにされているお姉ちゃんが、這いずるように部屋の中を動き回っていたけど、それが何時の間にか止まり大人しくなる……そしてお姉ちゃんの後ろから、体を激しくぶつける様にしながら重ねるお兄ちゃん……

お姉ちゃんのお尻と言うか股間に入り込んで、激しく出し入れされているお兄ちゃんのおちんちんが見えた。

そしておちんちんを突き込まれるたびに、お姉ちゃんは泣きながら苦しげな声を出し続けていた……

何が起こっているのか、お姉ちゃんとお兄ちゃんが何をしているのか、当時の私にはわからなかった……解らなかったけど、私は見てはいけないものを見ていると感じていた。

四つん這いの姉ちゃん……そんなお姉ちゃんの後ろから、おちんちんを突き入れているお兄ちゃん……そんな二人の姿を見てるとなぜか涙が出てくる……それでも私は、裸になってもつれ合う二人の姿を見続ける……そして一瞬だけど、覗き見している私と姉に視線が合ったように思えた。

怖くなった……本当に何をしているのか、お姉ちゃんがお兄ちゃんに何をされているのか、解らないけど……裸になった二人の姿とお姉ちゃんの口から漏れ続けている声……

人ではなく、何か別の生き物のように見えて、怖くなってしまふ。

